

文章題テスト・小説(3)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

その翌日は、朝のうちはまだ雲間から薄日が洩れていて、ぼくがゴム長をはき、傘を持って分教場へいくと、先に教室へはいつていた連中が、みんな窓から首を出して、声をそろえてぼくをはやし立てた。

「東京者は、臆病者！ 天気がいいのに傘さして！」

ぼくは、珍しくむっとした。なにか、みんなの前で失敗をしたり、みんなが容易にできることをできなかったりして、それではやし立てられるのなら仕方がないが、そうではなくて、傘をただ手に持っているだけなのに、さしているといったり、用意がいいのを臆病と取り違えたりする連中には、黙っているわけにはいかない。

そこで、ぼくはみんなの前に両手を上げて、こう叫んだ。

「ちよっと静かにしてくれよ、みんな」

みんなは、ぴたりと口をつぐんだ。ぼくがそんな演説めたことはいちどもしたことがなかったから、みんなはびっくりしたのだ。ぼくはつづけて、こう叫んだ。

「きみたちはいま、ぼくのことを臆病者といったね。だけど、ぼくは雨がこわいんじゃない、濡れたくないから、傘を持ってきたんだ。なるほどいまは降ってないけど、午後からきつと雨になるよ。ぼくにはちゃんとわかってるんだ。なんなら、雨が降り出す時間をいおうか？ それはね、午後の三時ごろだ」

みんなは、ぽかんとしてぼくを眺めていた。裏山でホトトギスが鳴いていて、その声が非常にはっきりときこえていた。ぼくは、この村にきてから、こんなに自信にミちた口調でだれかにものを語ったことが、いちどでもあっただろうか。

ぼくはちよっと調子に乗り過ぎたんじゃないかと思ったが、自分の舌の動きを止めることができなかった。われながら、偉そうな演説になってしまった。

ところが、間の悪いことに、ぼくが話し終わったとたん、それを待っていたかのように雲間から明るい陽射しが、かっどぼくらの頭上にテリつけてきた。校舎の窓という窓が、



いっせいにきらきらと輝き、校庭にぽつんと一人立っている。ぼくの影が校門の方へ逃げるように走り、みんなは急に勢いづいて、わあわあとぼくに非難の言葉を浴びせてきた。

そんな、猫が忍びこんだ鶏小屋のような騒ぎのなかから、ぴよんと校庭に跳び降りてきた者があった。中学三年の大作である。大作は、分教場では一番の大男で、鼻の下にはもうっすらとひげが生えている。中学とは教室が違うから、授業中のことはわからないが、校外活動では常にリーダーとして睨みを利かせている人物である。その大作が、ふいに窓から跳び降りてきたものだから、一瞬、ぼくは胸がどきりとした。いつかテレビで見た西部劇の決闘シーンが、ちらと頭をかすめたからだ。

「静まれ！静まれっていうに！」

大作は、腹のソコまで響くような大声で窓の騒ぎを鎮めると、みんなに向かって、

「面白いじゃないか。どうじゃろう、きょう午後の三時に、雨が降るか降らないか、このモヤシのユタと賭けをしてみんなかのう」

といった。どっと賛成の声があがった。大作は、ぼくのすぐ前まで歩いてきて、見下ろした。

「どうじゃ、モヤシ。みんなもああいうてるが、賭けをしてもええな？」

ぼくは内心、困ったことになったと思ったが、いまさらあとへも退けないから、

「ああ、いいとも」

と、せいぜい胸を張って答えた。

(三浦哲郎「ユタとふしぎな仲間たち」による)

(注) 分教場：本校とは別の所に作った学校、分校

線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア 「容」は音のみの漢字。「易」の訓は「やさしい」で、「エキ」という音もある。貿易など。

ア ようい

イ 満(ちた)

ウ 照(り)

イ 「満」の音は「マン」。満足、不満など。

ウ 音は「ショウ」。照明、日照など。

エ いきお(い)

オ 底

エ 音は「セイ」。勢力、形勢など。

オ 音は「テイ」。底辺、海底など。「低」とまちがえないように注意しよう。



2 線1「みんなは、びたりと口をつぐんだ」とありますが、その理由を次のように説明するとき、に当てはまる言葉を、文中から六字で書きぬきなさい。

みんなは、「ぼく（ユタ）」が初めて演説めたことをしだしたので、

び っ く り し た

から。
すぐ後の一文に「**ぼくがそんな…みんなはびっくりしたのだ**」とある。

3 線2「裏山でホトトギスが鳴いていて、その声が非常にはっきりときこえていた」とありますが、この表現はどのようなことを表していますか。最も適当なものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア あたりがしいんと静まりかえっていること。
- イ あたりにきんちよう感がただよっていること。
- ウ 「ぼく」の感覚がとぎすまされていること。
- エ 「ぼく」がすっきりした気分になったこと。

4 線3「みんなは急に…：…ぼくに非難の言葉を浴びせてきた」とありますが、このときのみんなのようすをたとえを用いて表現している部分を、文中から十六字でぬき出し、初めの五字を書きなさい。

猫 が 忍 び こ

すぐ後の「**そんな**」は——線3の内容を指している。みんなが騒ぐようすを「**猫が忍びこんだ鶏小屋のような騒ぎ**」とたとえて表現している。

5 線4「大作」についての説明が書かれている部分は、どこからどこまでですか。初めと終わりの五字をそれぞれ書きぬきなさい。（「、」や「。」も一字とします。）
すぐ後の二文に、「**大作**」についての説明が書かれている。

初め **大作は、分** 終わり **物である。**

6 場面の移り変わりに応じた「ぼく（ユタ）」の気持ちの変化を、次のようにまとめました。
に当てはまる言葉を、文中から十二字で書きぬきなさい。

みんなから「臆病者」 はやし立てられたとき	・むっとした ・黙っているわけにはいかないと思った
みんなの前で演説をしたとき	・「ちょっと調子に乗り過ぎたんじゃないか」と思った
演説をきいた大作が校庭に 跳び降りてきたとき	・胸がどきりとした
大作が「賭け」をしようと 言い出したとき	・「困ったことになったが、 <input type="text"/> 」と思った

い ま さ ら あ と へ も 退 け な い

大作に賭けをもちかけられたときの「ぼく」の気持ちは、直後の一文「**ぼくは内心、困った…いまさらあとへも退けない**」に書かれている。